

農地整備を契機とした 地域営農体制の構築

(「地域計画」関連課題)



課題期間：令和5年度～令和6年度（2か年）

担チーム員：◎津田花愛，笹原剛志，石井友紀子，小松知子

1. 課題対象者：清水営農組合員（23人）

2. R5年度の目標

定性的目標

- ・法人の担い手候補が地域内で認知され、将来ビジョンが明確となり、共有化される。
- ・農地整備後の地域の目指す営農の姿が明確になり、新たな営農体制が検討される。
- ・地域に適した高収益作物が明確になる。

定量的数値目標

- ・法人化計画を含めた集落営農組織の将来ビジョン
R4（0）→R5（0）→R6（1）



3. 活動内容

- (1) 清水未来手帳の配布
- (2) 清水地区座談会①～⑤
- (3) 先進地視察（農事組合法人みらいす青生）
- (4) 若手農業者意見交換会
- (5) 大豆栽培研修会



※地権者も組合員の家族も、清水地区の農業に関わる人

3. 活動内容 (1) 清水未来手帳の配布

- ・農地整備要件、アンケート調査結果、研修会資料を綴って、地域の法人化に関わる世帯に1冊ずつ配布。
- ・座談会には必ず持ってきてもらい、配布資料をその場で綴じてもらう。
- ・座談会に欠席でも、地区の班長を通して資料配布→清水手帳へ綴ってもらうよう促した。



3. 活動内容 (2) 清水地区座談会①～⑤

座談会テーマ

- ① 「農事組合法人みらいす青生に聞いてみたいこと」
- ② 「どのような事業をしたらよいと思いますか」
- ③ 「農地をどう活用したらよいと思いますか」
- ④ 「法人でどのように働きたいですか」
- ⑤ 「 」



座談会前には毎回、設定テーマ、グループ分け、タイムスケジュールなどについて、世話役（組合長、副組合長、会計、若手農業者、地区農業委員）と打合せを行っている。

3. 活動内容 (2) 清水地区座談会①～⑤



①手順の説明



②付せんに思いを書いてもらう

3. 活動内容 (2) 清水地区座談会①～⑤



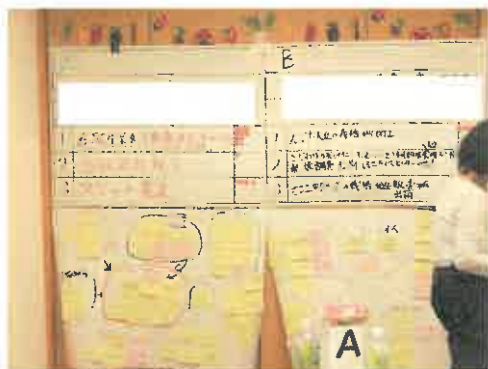
③班ごとに発表

④投票



3. 活動内容 (2) 清水地区座談会①～⑤

毎回、結論が見える化することで、「隣の人と思いを共有」



清水地区座談会②



清水地区座談会③




清水地区座談会④

3. 活動内容 (2) 清水地区座談会①～⑤

座談会② 振り返り

FB12.1.1
大津農会協議会交流センター

◆座談会②「法人で作りたい作物、やっていた事業」を振り返りました！



令和5年11月19日、たくさんの方にご出席いただき、座談会を開催しました。今回は、5つの席に分かれて、「法人で作りたい作物、やっていた事業」について話し合いました。

ワークショップでは、ひとりひとり皆さん思いを書き出し、紙で共有しながら紙に貼ってグループ化します。書かずに新しく出てきた意見も、皆さんに書いてどんどん定めていきます。グループができたら、紙として3つの意見に絞ります（議題）。

最後に代表者が発表を行います。5つの紙それぞれを議題にした、イチオシの内容を発表しました。発表後は全員で、どの意見に共感したか、ひとり3票ずつ投票しました。

投票の結果、以下の4つが、「法人で作りたい作物、やっていた事業」として関心が高いものであることが考えられました。

①収穫祭で盛り上げる（収穫体験や、研修旅行も）
②六次化（製粉加工と販売、セどりなど）
③製品作り（餅類・大ごま）
④大豆加工品・食品開発

また、改めて投票結果を鑑みさせていただき、全大豆の製造に際しても、関心が高いことが考えました。

※ワークショップは、参加者の思いを共有し、法人の力強さを考えるために実施しています。今回選ばれた内容に、法人の事業として取り組むことが決まらなかったわけではありません。

◆各席の発表内容を紹介します

席	内容	票数
1★	6次産業化（飲食・販売・サービス） 女性活躍	10
2◎	商品づくりへ	7
3	スマート農業	4

内容	票数	
1★◎	1 大ごま・大豆の製粉から加工	5
2◎	こだわりの米（伊豆産米、金のいぶき） 特別米・大豆の製粉から加工（玄米） 大豆加工品・大豆の製粉から加工（玄米）	3
3	大豆加工品・大豆の製粉から加工	1

内容	票数	
1★	1 餅類加工・販売利用	1
2★◎	2 大豆加工と大豆の製粉	1
3	3 大豆加工品	1

内容	票数	
1◎	1 収穫祭づくりたい、研修旅行も企画される	2
2★◎	2 大ごま・餅類加工づくり（バームクーヘン） 商品づくり（餅類）	0
3★	3 収穫祭で盛り上げる（収穫体験をしてもらって、地域ぐるみで盛り上げ、研修旅行も）	13

内容	票数	
1◎	1 餅類加工の取り組み 大ごま・餅類	6
2★	2 大豆加工（製粉、ろ過、シヤム、やさい等）	2
3	3 餅類（お餅作り、販売）	1, 2

★：収穫祭（13票） ※：六次化（餅類加工と販売）：31票
◎：製品作り（餅類・大ごま）（19票） ◆：こだわりの米・食品開発（8票）
△：スマート農業

◆ご出席いただいた皆様、ありがとうございました。
※3回ご出席の発表をお待ちしています。次回以降でも大丈夫です！

欠席者にも、座談会の内容を記載したペーパーを配布：情報共有を促している

3. 活動内容 (4) 若手農業者意見交換会



3. 活動内容（5）大豆栽培研修会



大豆の基本的な栽培方法と、JA加美よつばでの大豆生産体制について、研修会を実施。

4. 目標の達成状況

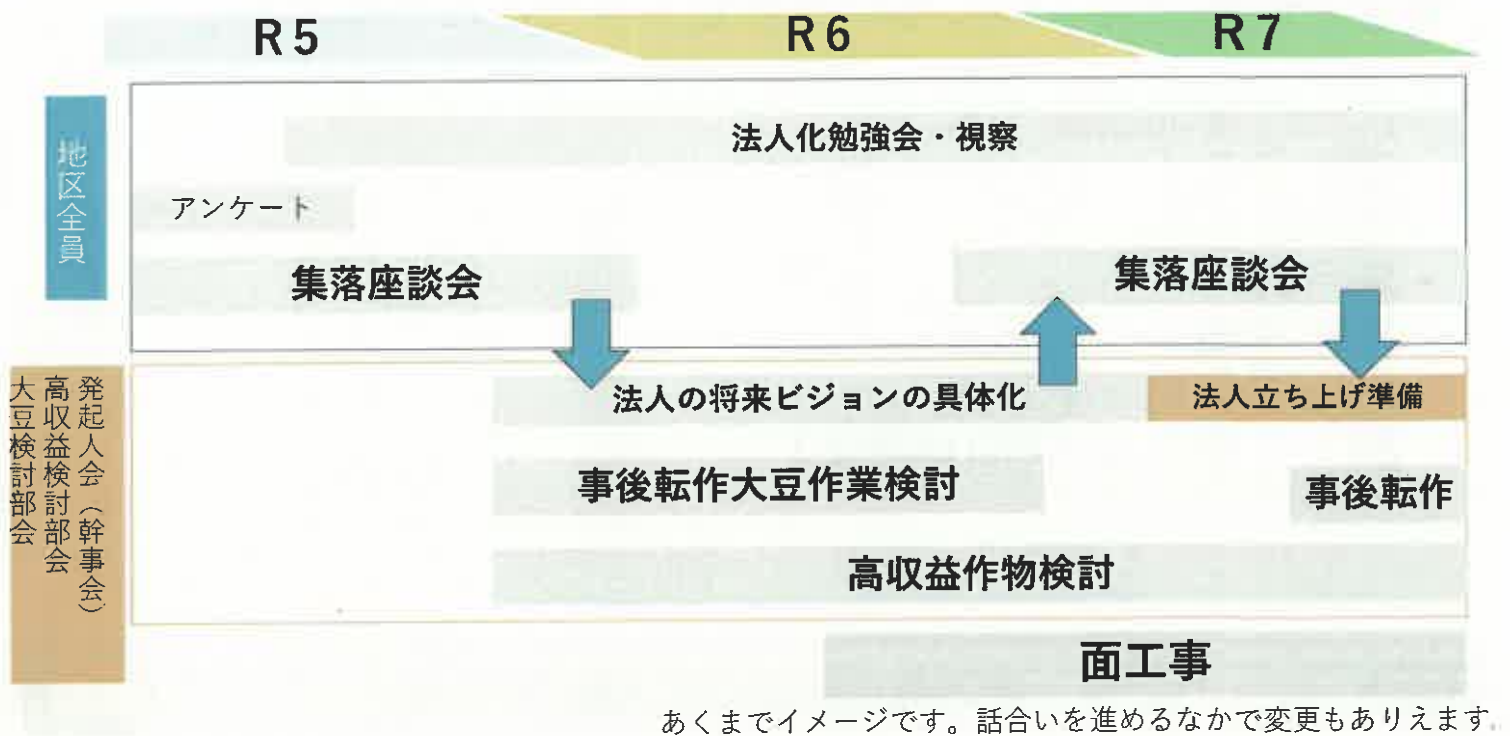
- ・法人の担い手候補が地域内で認知され、将来ビジョンが明確となり、共有化される。
→法人設立準備会に向けた動きあり。将来について考え、地区で共有した。
- ・農地整備後の地域の目指す営農の姿が明確になり、新たな営農体制が検討される。
→法人設立時の姿と10年後について営農体制が検討された。
- ・地域に適した高収益作物が明確になる。
→はくさい、だいこんなど、具体的な品目について検討を行った。

定量的数値目標

- ・法人化計画を含めた集落営農組織の将来ビジョン
R4 (0) → R5 (0) → R6 (1)



4. 今後の予定



令和5年度プロジェクト課題No.3

中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上

チーム員：小林、伊藤、石井、小松、門脇

活動期間：令和5年度～令和7年度
(但し、実質的な活動は令和4年度から)



1 対象

- 農事組合法人「やくらい土産センターさんちゃん会」
 - 役員
 - 代表理事組合長 1人
 - 理事 5人
 - 監事 2人
 - 組合員
 - 正組合員：113人
 - 員外組合員：78人
 - 計：191人（R5.6現在）
 - プラビラボ 8人



2 活動内容 (1) POP作成研修会



2 活動内容 (2) 新規加工品の試作



宮城県大崎農業改良普及センター

4

2 活動内容

(3) 若手生産者と取り組む次世代への継承準備①



左：プラビラボとの打ち合わせ



右：理事会での提案



宮城県大崎農業改良普及センター

5

2 活動内容

(3) 若手生産者と取り組む次世代への継承準備②



カミヤングイチ R5.11.3



3 これまでの活動の成果

- 今年度から新規品目の栽培に取り組む生産者が増加した。
- 売り場改善策の提案、実行により来客数、販売額が増加した。
- 若手農業者と取り組むイベントを開催、来客数、販売額が増加した。
- 新規加工品の試作を実施、うち完成した商品の販売を行った。



4 次年度以降の活動

- 園芸作物の栽培技術向上
- 周辺施設との連携によるイベントの開催
- 事業継承に向けた準備開始
- プラビラボと協同したイベント開催
- 新規加工品の開発



令和5年度プロジェクト課題No. 4

子実用とうもろこしを含む 水田農業の輪作技術体系の確立

「みどりの食料システム戦略」関連課題

大崎農業改良普及センター

◎後藤佳彦 笹原剛志

早坂浩志 阿部玲佳



1. 課題の計画

計画期間

令和5年度～令和6年度

対象者

農事組合法人アグリ高倉（構成員3人）

↳R4：子実用とうもろこし 10ha

大豆 73ha（作業受託含む）

水稲乾田直播 3ha（個人部門）

波及効果として、

J A古川大豆・麦・子実用トウモロコシ生産組織連絡協議会 88組織

2. 令和5年度の目標

定性的目標

- 子実用とうもろこしの排水対策、適期作業が実施できるようになる。
- 子実用とうもろこしの**後作の大豆**について、適切な栽培管理が可能となる。
- 乾田直播栽培**の基本的な栽培技術を習得する。

定量的目標

対象経営体の子実用とうもろこしの収量

R4(290kg/10a)→R5(500kg/10a)→R6(700kg/10a)

3. 活動内容

①子実用とうもろこしの反収向上に向けた支援



施肥指導



降雨後



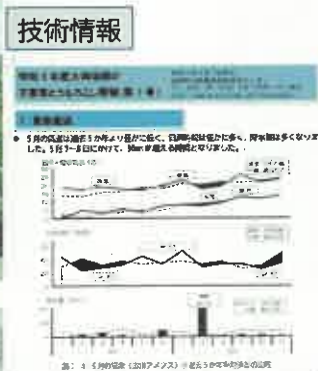
明渠の施工

3. 活動内容

①子実用とうもろこしの反収向上に向けた支援



生育調査



技術情報

区分	項目	単位	値	単位	値
1期	降雨	mm	25.3	mm	26.7
	日照	h	2.0	h	2.7
2期	降雨	mm	1.0	mm	0.1
	日照	h	2.0	h	4.1



現地検討会

3. 活動内容

②子実用とうもろこしの後作の大豆の栽培管理支援

土壌調査



大豆連作
「タンレイ」



とうもろこし
後作
「きぬさやか」



3. 活動内容

③水稲乾田直播の実践支援

生育調査



雑草防除指導



6月8日



7月11日



8月9日



4. これまでの活動の成果

- 子実用とうもろこしは、効果的な排水対策、適期の追肥作業が実施ができた。収量は33%増加した。
- 後作大豆は、土壌物理性改善効果は判然としなかったが、とうもろこし後作ほ場の収量が高くなることが示唆された。
- 乾田直播栽培は、追肥や雑草防除等の基本的な栽培技術の向上がみられた。一発肥料を試験施用し、農家慣行の化成肥料と比べて、収量が22%増加することが分かった。

定量的目標

対象経営体の子実用とうもろこしの収量

R4(290kg/10a)→R5(500kg/10a)→R6(700kg/10a)

(R5実績：385kg/10a)

5. 次年度以降の計画

- 子実用とうもろこし
複数ほ場での土壌分析、生育調査
- 後作大豆
土壌物理性改善効果、収量性の再検討
雑草の発生状況調査
- 乾田直播
施肥や雑草防除等の栽培技術の定着
漏水対策指導

